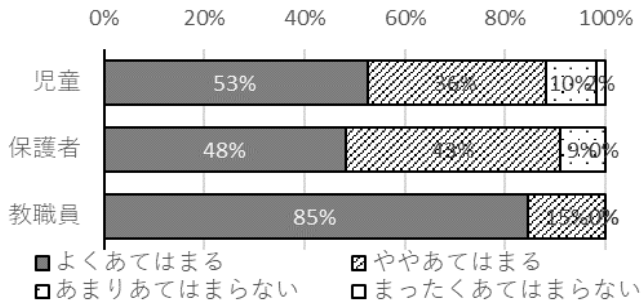


令和6年度 学校評価 集計結果

①学校が楽しい。

※学校へ行くのが楽しい。



※お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。

※児童が楽しく学校へ通うことができるよう、日々の教育活動を工夫している。

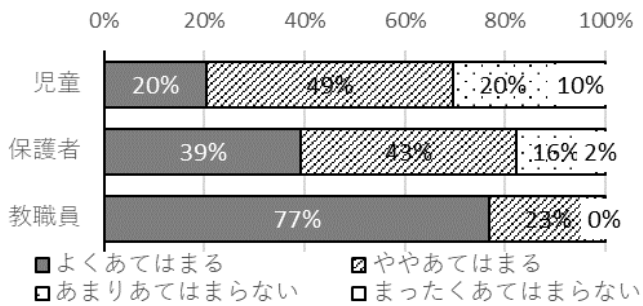
成果と課題	89%（昨年92%）の児童が楽しいと感じているが、楽しくないと感じている子もいる。（11%）授業や人間関係に悩んでいる児童がいるのではないかと考える。
※対策	各担任が児童観察を続け、気になることがあれば共通理解をする。データを学年別で見て楽しくないと答えた児童の学年を把握し、再検証する。タブレットの導入など、授業方法を改善し、楽しいと思える学習活動にしていきたい。

②早寝・早起き

※毎日、決められた時刻に起き、夜更かしをせずに決められた時刻に寝ている。（早寝・早起き）

※家庭では、早寝早起きをさせている。起床…登校の1時間前 就寝…低21時・中21時30分・高22時

※早寝・早起きなど基本的な生活習慣の大切さについて指導している。



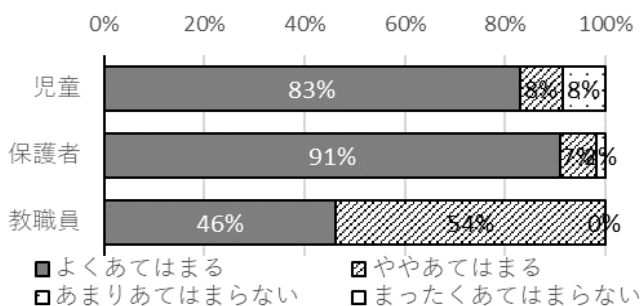
成果と課題	82%保護者が指導をしていると答えているが、30%の児童ができていないと答えている。家庭内での生活習慣に対するきまりが守れていない、あるいはきまりがあいまいになっているのではないかと考える。
対策	今年度も児童への指導を継続するとともに、学年便り・保健便りの活用を行っていききたい。また保護者への周知・啓発をし、ゲーム等の時間について、家庭でのルール作りに取り組んでもらうようにする。可能であれば、生活習慣（早寝・早起き）についての講演会を実施したい。

③朝食について

※毎日、朝ご飯をきちんと食べて学校に来ている。

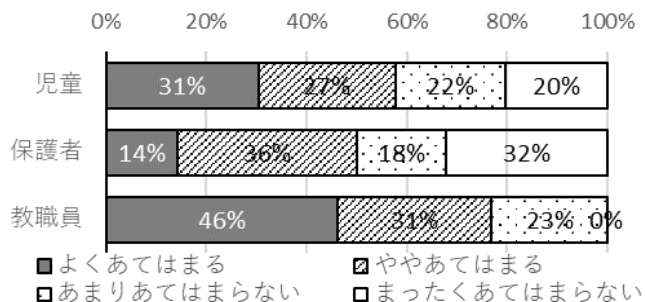
※お子さんは、朝ご飯を必ず食べている

※食育を通して朝食の大切さについて指導し、保護者にも啓発を図っている。



成果と課題	91%（昨年度94%）の児童が朝食をとっているが、8%の児童がきちんととれていない。
※対策	養護教諭や栄養教諭も授業に参加して朝食の大切さを理解させたい。また保健便りなどを活用して保護者への周知・啓発に取り組むたい。

④毎日歩いて登校



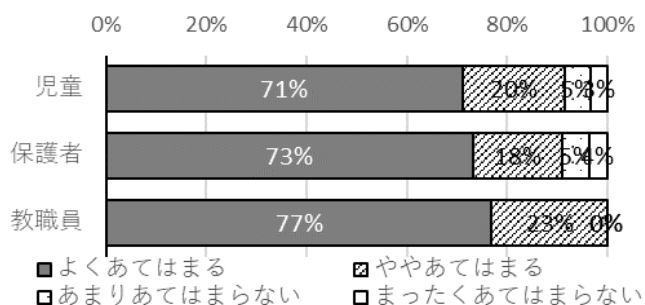
※体調の悪い時以外は、毎日歩いて登校している。

※お子さんは、体調の悪いとき以外は、歩いて登校している。

※体調の悪いとき以外は、できるだけ歩いて登校するよう呼びかけている。

成果と課題	歩いて登校する児童が増加した58%（昨年度46%）ただ依然として42%の児童が、歩いて登下校していない。本校が住宅地から離れた高台にあるという立地条件が影響していると思われる。学校再編があればほとんど車になるのではという懸念がある。
※対策	地域の実情からやむを得ない面もあるが、引き続き保護者に啓発をする。学校としては、体力作りを今まで以上に組みたい。また通学路に緑のラインを引いてもらうなど児童が安全に登下校できるように要望をだしている。（令和6年度通学路点検実施）

⑤毎日の宿題を忘れずにできている。



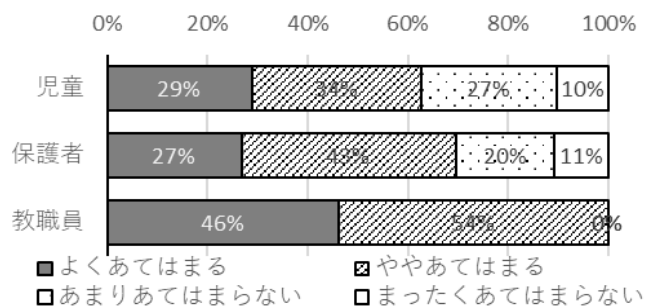
※毎日宿題を忘れずにできている。

※家庭では、お子さんに毎日宿題をするよう声かけをしている。

※児童の家庭学習の習慣が身に付くよう、適切な内容・量の宿題を出したり、その確認を行ったりしている。

成果と課題	91%（昨年度93%）の児童が毎日宿題に取り組んでいるが、9%の児童ができていないと答えている。同様に保護者も9%声かけができていない。②の生活習慣の乱れから、ゲームや動画に時間を費やし、落ちついて宿題に取り組めていないと考える。
※対策	宿題に関して、適切な内容・量を見直し、家庭で継続してする習慣をつける。保護者と相談して場合によっては学校でさせる。また保護者と連携して家庭で宿題をサポートしてもらうようにする。

⑥自主勉強・読書について



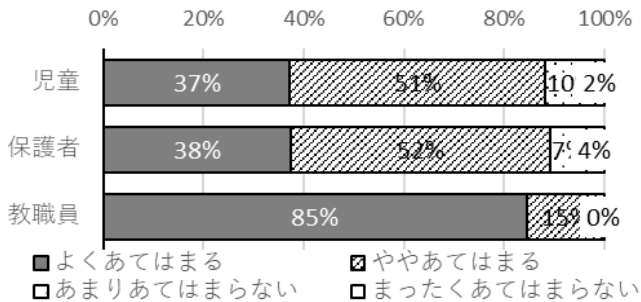
※自主勉強や読書が自分から進んでできている。

※家庭では、お子さんに読書や自主勉強などに取り組むよう声かけをしている。

※学習の手引きを活用して自主学習の仕方について指導したり、本の紹介や読み聞かせなど、児童の家庭での読書につながる指導をしたりしている。

成果と課題	37%（昨年度32%）の児童が自主学習・読書に進んで取り組めていない。引き続き時間を取って教師が児童に自主学習の進め方やノートのとめ方などを教える必要がある。また本校は図書室がないので、じっくり落ち着いて読書ができる場所がない。
※対策	各学年に応じた学習の手引きを活用して自主学習ノートの使い方を指導する。読書については、担任と時間をとって図書ホールに見に行く。また職員の共通理解で週末読書を実施する。

⑦基礎学力



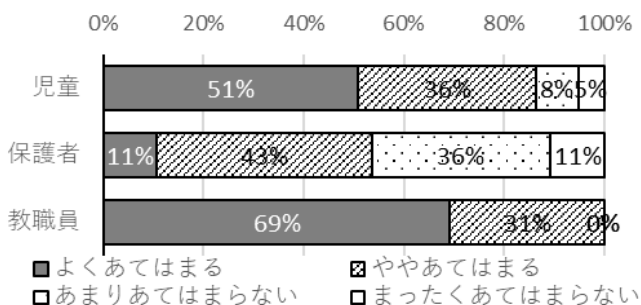
※今の学年で習った漢字の読み・書きや、計算、音読ができる。

※お子さんは、漢字の読み・書きや計算などの基礎学力が身に付いている。

※漢字の読み・書きや計算、音読などの基礎学力が身に付くよう継続して丁寧に指導している。

成果と課題	88%（昨年度87%）の児童が基礎学力が身についていると感じているが、12%の児童・保護者ができていないと感じている。授業の内容を一人一人が理解できるよう手立てを考える必要がある。
※対策	継続して授業では基礎・基本の徹底に努めるとともに、タブレットを活用するなど授業が楽しいと感じるようなものを取り入れる。またミニテストなどを実施してその都度、児童の理解状況を確認していきたい。ポジティブ行動支援を充実させていく。

⑧タブレットについて



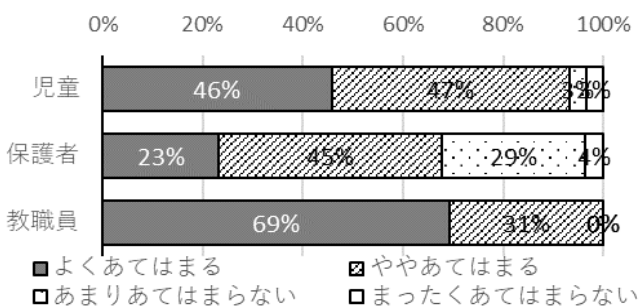
※タブレットを使うことで学習が楽しくなり、わかりやすくなった。

※お子さんは、家庭でも、タブレットを用いて学習をしている。

※タブレットなどのICT機器を活用するなどして指導環境が向上した。

成果と課題	87%（昨年度79%）の児童がタブレットの効果を実感しているが13%、タブレットの効果を実感できていない。家庭では、よくあてはまると感じている保護者が11%と減少している。（昨年度24%）タブレットの活用方法を紹介していく必要があると思う。
※対策	視力の低下も懸念されるが、定期的にタブレットを使った宿題を提示していくことも必要かと考える。タブレットの必要性を認識させる。

⑨当番・係活動・掃除



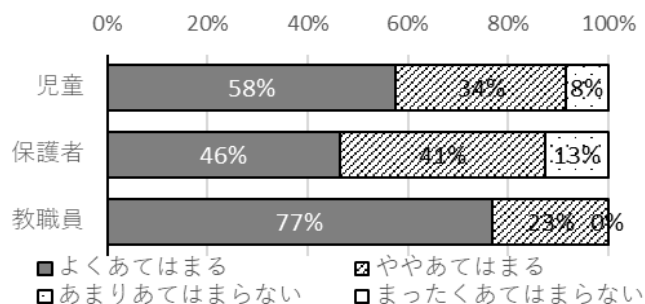
※当番や係の仕事、そうじなどに進んで取り組み、一生懸命できている。

※家庭では、決まったお手伝いをさせ、働くことを大切にしている。

※他人や学級・学校のために進んで働くことができる児童を育てている。

成果と課題	93%（昨年度90%）の児童が係や掃除にまじめに取り組んでいる。しかし、昨年度同様保護者が家庭であまりお手伝いをさせていないと答えている。（33%）家庭環境によるが、多忙さ、部活動の疲れ、生活習慣の乱れが影響しているように考える。
※対策	掃除の時間は、なるべく無言で時間いっぱいすることを徹底したい。合わせて掃除道具の使い方をきちんと教える。また、できている子はさらに力をのばすような指導をしたい。「お手伝い日記」や「お手伝い週間」などのワークシート・掃除時間に音楽をかけるなど工夫していきたい。

⑩挨拶・返事・ありがとう

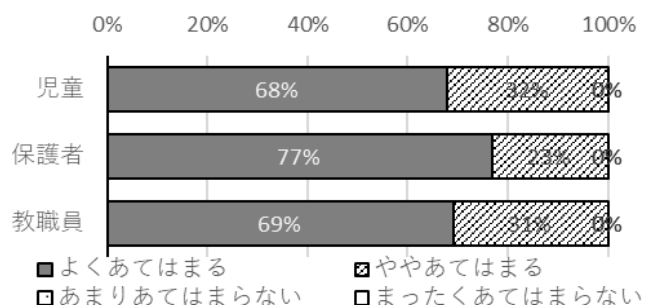


※家族や先生方、友達や地域の方に「あいさつ・返事・ありがとう」ができています。

※お子さんは、きちんと返事し、家族や先生、地域の方に挨拶をしたり、感謝の言葉を伝えたりしている。
※児童が保護者・地域の方々や教職員に「挨拶・返事・ありがとう」ができるよう、声掛けや指導をしている。

成果と課題	昨年度とほぼ同様、児童は挨拶返事ありがとうに取り組んでいる。(92%、昨年度94%) 保護者の方は児童ができてきている(よくあてはまる)と感じている人が大幅に増えた46%(昨年度33%)学校外でも挨拶ができる児童が増えたのではないかと考える。
※対策	引き続き挨拶に関しては指導を継続し、いつでも誰とでもできるようにしていきたい。校内では、教職員から積極的にはじめていきたい。あわせて家庭での挨拶も啓発していきたい。大きな声ではきはきと言えるよう指導する。

⑪いじめゼロ(新設)



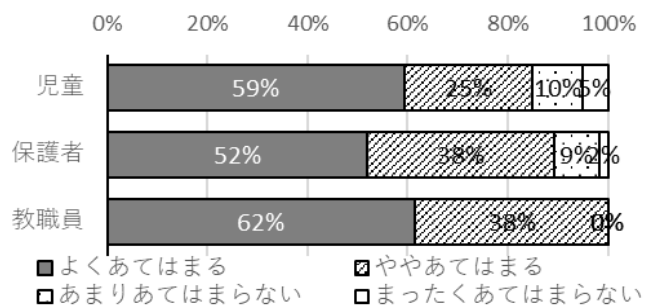
※いじめゼロ宣言を守り、いじめをしないで、友達と仲良くできている。

※お子さんは、友達にいじめをしないで仲良くできている。

※児童が、いじめをしたり、いじめを見逃したり、いじめの傍観者になったりしないよう、互いの人権を尊重し合える仲間づくりができています。

成果と課題	100%の児童が、いじめをせず、友達と仲良くしていると答えている。同様に保護者も児童が友達と仲良くできていると感じている。
※対策	今後も、人権教育を充実させ、「よくあてはまる」と答える児童が増えるようにしていきたい。学級全体での話し合いや個別での聞き取りをして実態把握を行い、問題解決に取り組む。

⑫家庭とのコミュニケーション



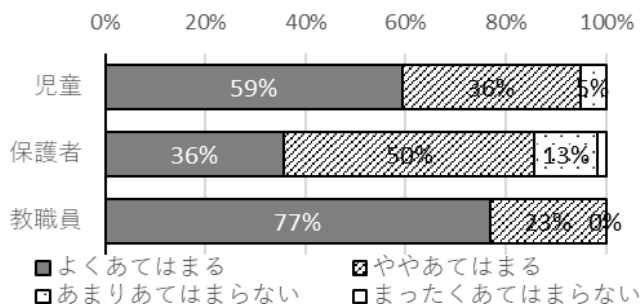
※家の人に学校の出来事をよく話している。

※お子さんは、家で学校の出来事をよく話している。

※児童や保護者とのコミュニケーションを密にしている。

成果と課題	84%(昨年度86%)の児童は学校の出来事を家庭で話している。話していない児童は15%いる。塾や部活、生活習慣が原因で保護者と話す時間が少ない児童がいるのではないかと考える。
※対策	引き続き結果を公表して、保護者に啓発していく。各種お便りやホームページで発信していく。(子どもが言わない分)

⑬防災教育について



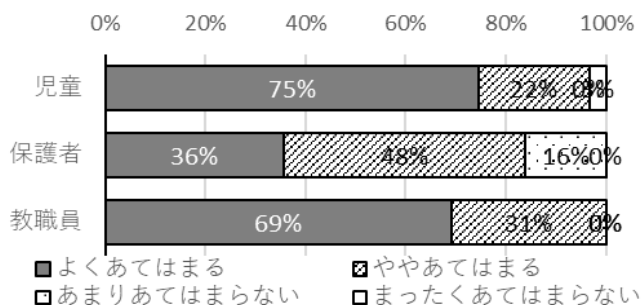
※地震や津波の時の避難のしかたが分かり、行動できる。

※家庭では、地震・津波避難や防災について話し合いをしている。

※地域と連携し、発達段階に応じた防災教育に取り組んでいる。

成果と課題	95% (昨年度93%) の児童が避難の仕方を理解しているが、今年度も親子間で評価のギャップがある。家庭内でも災害時の避難の仕方等をじっくりと話し合う時間が必要なのではないか。
※対策	本校では、引き続き発達段階に合わせて、避難訓練のたびに逃げ方・対策などを話し合う。また参観授業後等で防災についての学校行事を実施したい。(体験・講演)そして学校での学習を家庭へ広げていきたい。今年度はユレタキャラバンを実施。

⑭わかる授業



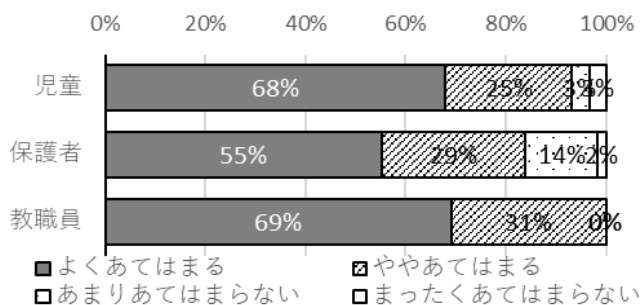
※先生は、毎日の授業をわかりやすく教えてくれる。

※お子さんは、学校の授業がよくわかると言っている。

※よく分かる楽しい授業を工夫している。

成果と課題	97% (昨年度95%) の児童が、学校の授業はわかりやすいと感じているが、3%はそう感じていない。
※対策	低学年では、国「読む・書く」の基礎基本を大事にする、算…具体物の操作で理解を深める。研修で授業力向上に取り組み、児童ができるまで支援を続ける。また働き方改革を推進し、教材研究の時間確保に努めたい。(可能な範囲で)

⑮PBS (ポジティブな行動支援)



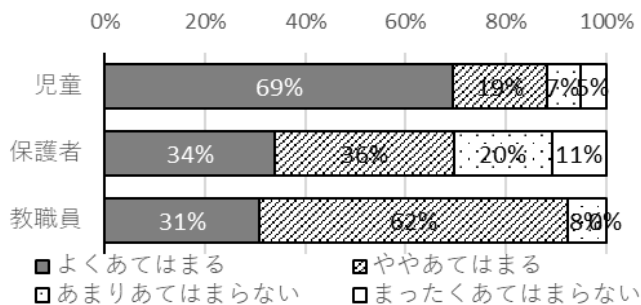
※先生方は、がんばったことや自分のよいところをほめてくれる。

※お子さんは、学校でほめられたことで自分への自信を高めている。

※PBSに取り組み、児童一人一人のよさを認め、しっかりと児童に伝えている。

成果と課題	93% (昨年度90%) の児童が先生にほめてもらっていると感じているが、7%の児童がそう感じていない。保護者のほうは60%から55%へ減少。
※対策	一人一人を理解し、PBSを継続する。でも悪い時はしっかり、はっきり叱る。学年便りなどで学級の様子(児童をほめる内容)を伝える。日記等での明るい声かけや個人懇談などでも子どものいいところを多めに話す。

⑩健康・体力の向上



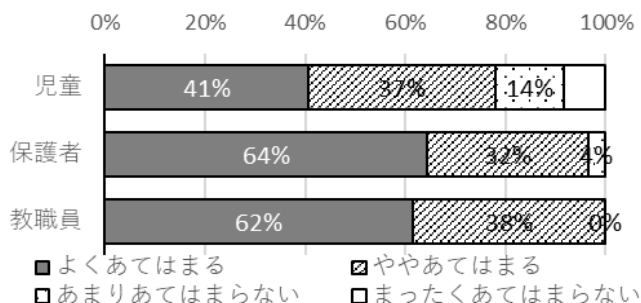
※休み時間に外で遊んだり、体育の時間に楽しく運動したりしている。

※お子さんは、家庭で外遊びや体力づくりに取り組んでいる。

※児童と一緒に外遊びをしたり、健康・体力向上に向けた活動や授業の工夫をしたりしている。

成果と課題	88% (昨年度90%) の児童が運動しているが、運動せず、中で過ごしている児童がいる (12%)。また昨年度同様家庭でも、運動・体力向上にあまり取り組めていない。
※対策	体力向上に向けた活動の実施・授業の改善に取り組みたい。外遊びを好まない児童も外で活動できる機会の設定をしていきたい。保護者へは、実態を理解してもらおうと同時に、家庭でも体力づくりやに取り組んでもらうよう啓発する。(徒歩通学を勧める)

⑪自尊心・自尊感情 (新設)



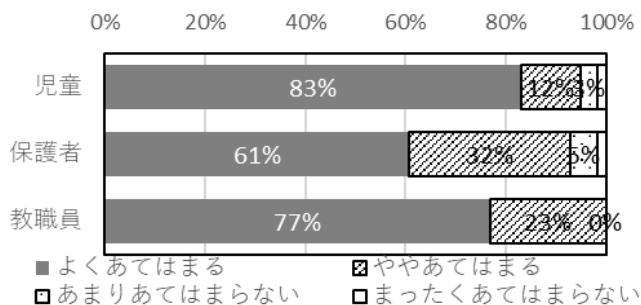
※自分には、よいところがあると思う。

※お子さんのよいところを認め、ほめている。

※児童のよさを生かした学習指導や学校経営をしている。

成果と課題	78%の児童が自分にはよいところがあると感じているが、22%の児童がそう感じていない。96%の保護者が、子どもを認めほめていると答えているが、まだまだ児童にとっては不十分なのかもしれない。児童が教師や友達と過ごす中で、ほめられたり、認められたりすることが少なく、自己有用感などを感じることができないのではないかと
※対策	全教育活動の中で、PBSを推進し、児童の自己有用感を高める。全教職員により、道徳・人権教育を充実させる。日記等での明るい声かけや個人懇談などでも子どものいいところを多めに話す。

⑫友達



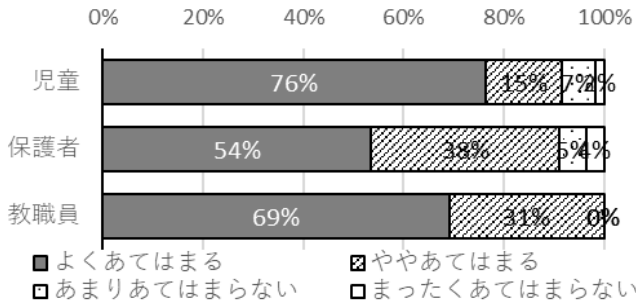
※困ったときに助けてくれる友達がいる。

※お子さんは、話をしたり、困ったときに助けてくれる仲のよい友達がいる。

※児童と一緒に話をしたり遊んだりできる友達ができるよう、互いを認め合い差別や偏見のない学級集団作りに努めている。

成果と課題	95% (昨年度92%) の児童には、助けてくれる友達がいるが、5%の児童にはそのような友達がいないと感じている。保護者についても「よくあてはまる」と答えた人が減少している。少人数という人間関係の中で悩んでいる児童がいるのではないかと考える。
※対策	常に児童の様子を気を配り、児童の変化に気づけるように努めたい。またささいなことでも終礼等で共通理解を図りたい。あわせて授業では、発達段階に合わせた「仲間づくり」の活動を積極的に導入していきたい。

⑱ 故郷への愛着



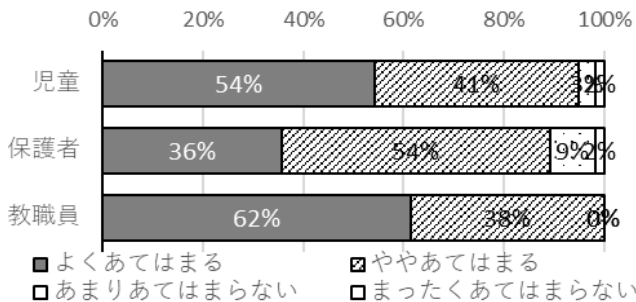
※橘町や阿南市が好きだ。

※お子さんは、橘町や阿南市のことが好きだと言っている。

※地域の人・もの・ことを活用するなど、阿南市や橘町を愛する気持ちを育む教育活動を展開している。

成果と課題	91%（昨年度89%）の児童が阿南市や橘町のことが好きと答えているが、9%（昨年度11%）の児童があまり好きではないと感じている。
※対策	地域と連携した教育活動を継続するとともに地域の歴史を学ぶ、橘町のよさを学ぶ学習を導入する。（地域に出向く活動 地域の人との交流 地域の誇り）

⑳ 学んだことを実践



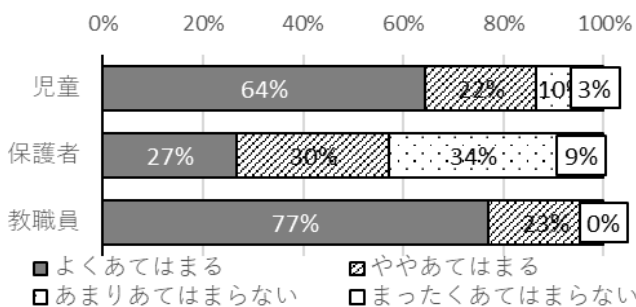
※学校で勉強したことを生活の中で使っている。

※お子さんは、学校で勉強したことを生活の中で活用している。

※学習したことを、児童が生活の中で生かせるよう指導や声かけをしている。

成果と課題	学んだことを実践できていると答えた児童が増加した95%（昨年度91%）保護者についても「よくあてはまる」と答えた人が増加している。36%（昨年度31%）
※対策	各教科、総合的な学習の時間を活用して、体験的な活動を積極的に導入していきたい。コロナ禍以前のように地域とのつながりを深めていく。社会科の授業などで時事ネタを話題に取り上げ、学んだこととつながりをもたせる。

㉑ 将来の夢



※将来の夢をもち、夢を叶えるためにがんばっている。

※お子さんは、将来の夢を意識して努力している。

※児童と将来の夢について語り合い、児童の夢を応援する声かけをしている。

成果と課題	86%の児童が夢を持ち頑張っていることがわかった。前年から大幅に増加した（昨年度77%）。ただ依然として13%の児童が夢を意識して努力することができていない。
※対策	ゲストティーチャーを招くなど、キャリア教育を充実させていくとともに、学級活動等で夢や、やってみたいことを語り合う。また授業では、基礎・基本の定着を図り、児童が今後夢を実現できる可能性を高めていきたい。